

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪経済大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカケイザイダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ、自治体実習
	学部・研究科等名	経済学部、経営学部、情報社会学部、人間科学部
	担当教職員名・役職	中島美佐穂
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	412
受入企業等数	185	
受入企業等名	https://www.osaka-ue.ac.jp/education/internship/	
インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実際の営業活動への同行、経理や総務などの事務業務、実際の店舗での販売業務、物流管理業務、システムエンジニア業務などを経験できたり、間近で経験できる。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次(学部により異なる)
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	春学期に2年次から4年次(学部により異なる)対象の専門教育科目として開講し、2単位を付与している。4～7月に週1回の事前講義、夏休み期間中に企業等での実習、9月に事後講義を実施している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実習中に学生が記載した日誌に、受入担当者に毎日コメントを記載頂くことで学生の状況を把握頂き、終了後に実習日誌や報告書から大学が把握している。また全企業の担当者に実習終了後に電話で実習状況を確認した。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全12回の事前講義の中で、インターンシップの意義や目的の理解(第1回)、業界研究・企業研究(第3回)、ビジネスマナー(第8～10回)、仕事のルールや倫理(第11回)等を実施している。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習参加者が、実習において当初目標の達成できた点、できなかった点を振り返り、グループで共有し気づきを促している。また、それを踏まえて今後の課題や目標を設定している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習期間中に学生が毎日記載する実習日誌に対して、受入担当者に毎日コメントを記載頂くことで、受入担当者が学生の状況を把握できる環境を作り、終了後に実習日誌や報告書から学生の実習状況を大学が把握している。また全ての企業に対して実習終了直後に受入担当者に電話で実習中の状況の聞き取りを行った。平成30年度は数社であるが、実習期間中に職員が企業に赴き、実習や学生の状況を確認した。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習終了後、受入企業に学生の評価表(ルーブリック)を提出いただいている。項目は社会人基礎力を基に「主体性」「働きかけ力」「課題発見力」「発信力」「状況把握力」の5つとしている。学生にも返却することで気づきを促すとともに、教員と学生で共有している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間、10日間など
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	5日間以上の実習期間は確保している。10日間も多く、最長は15日間である。多くは途中の土日を除き連続した期間となっているが、中には隔日実施や数日に1日の休みを設けている企業もある。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1社で5日間以上の実習期間を確保しており、日数や連続かどうかは企業等により異なる。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入担当者に対して、事前講義の一部を公開し見学いただいている。これにより、事前講義の内容や講義の雰囲気、学生の様子などを理解いただいている。また、実習終了後、受入企業に学生の評価表(ルーブリック)を提出いただいている。項目は社会人基礎力を基に「主体性」「働きかけ力」「課題発見力」「発信力」「状況把握力」の5つとしている。学生にも返却することで気づきを促すとともに、教員と学生で共有している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.osaka-ue.ac.jp/daikei_syllabus/bn/sy_ex/2017/1/3/2017_10_31101.html https://syllabus.osaka-ue.ac.jp/daikei_syllabus/bn/sy_ex/2017/1/2/2017_10_23256.html
問い合わせ先	大学等名	大阪経済大学
	担当部署名	進路支援部インターンシップ課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	海野悦治
	電話番号	06-6328-2431
	メールアドレス	keidai_intern@osaka-ue.ac.jp